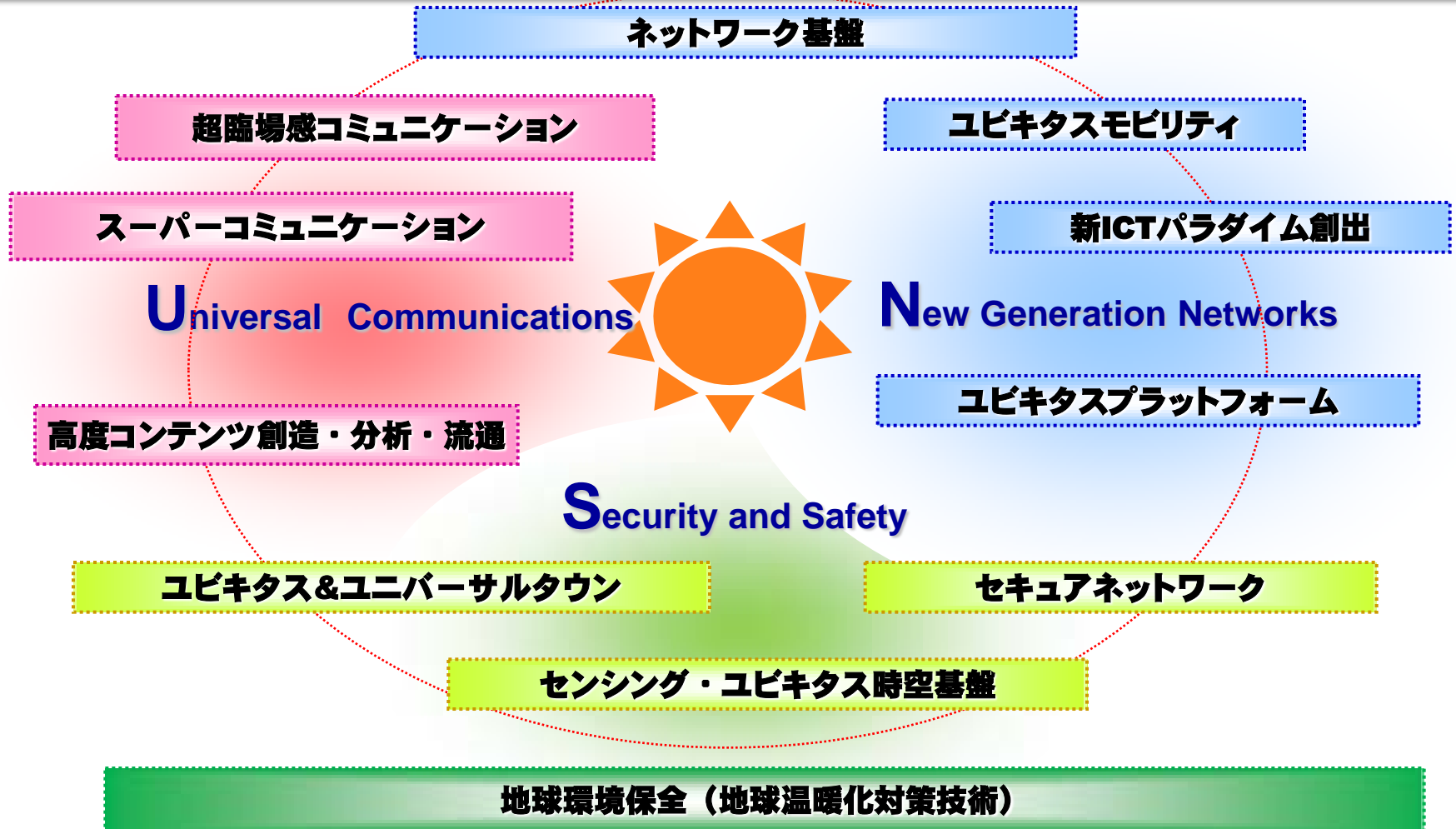


UNS研究開発戦略プログラムⅡ概要



総務省

- ① 「UNS戦略プログラム」（平成17年7月策定）を見直し、新たに「UNS研究開発戦略プログラムⅡ」として策定（情報通信審議会答申（平成20年6月27日））
- ② 検討の視点は、「研究開発課題の詳細な分析とロードマップの策定」と「重点課題の明確化」
- ③ 「UNS研究開発戦略プログラムⅡ」の領域、研究開発分野は「UNS戦略プログラム」を基礎とし、研究開発分野として新たに「地球環境保全（地球温暖化対策技術）」を追加



地球環境保全(地球温暖化対策技術)とは

地球環境保全(地球温暖化対策技術)分野は、地球温暖化の抑制、すなわちCO₂排出の抑制に貢献するための研究開発分野である。ICTの活用は、生産や物流、消費といった経済活動の効率を飛躍的に高める効果があることから、これまでに述べた10の研究開発分野における研究開発成果の多くが環境負荷、つまりCO₂排出の削減にも資する効果を持っている。

この研究開発分野には、以下の8つの研究開発課題が含まれる。

- エコ物流・安全交通システム
- 高度生産・購買・流通・支援システム
- テレリアリティシステム
- エコエネルギーマネジメントシステム(プロアクティブBEMS、HEMS)
- 省資源システム
- 環境情報の計測
- ICT機器・ネットワーク自体の省エネルギー化
- 環境情報の流通・分析・判断・制御

重点研究開発課題と推進方策

エコエネルギー
マネジメント
システム
(プロアクティブBE
MS・HEMS)

○エネルギーの流れを情報化することにより、増加の一途をたどる家庭等における電力消費量の削減に大きな効果が期待できることを勘案して、我が国の社会・生活基盤の充実の観点から、我が国全体及び政府として重点的に取り組むべき研究開発課題として位置づけることが適当。

推進方策

○この分野の研究開発課題は、他の研究開発分野と共通するものが多い。さらに、各研究開発分野において重点研究開発課題とされている課題の多くが上述のシステムに共通して活用され、CO₂の削減に大きく貢献することとなる。このため、他の研究開発分野における研究開発の進捗を踏まえつつ、各システムができるだけ早期に実現するよう、研究開発を効率的に推進していくことが適当である。

重点研究開発課題ロードマップ

2010

2015

2020

2025

エコエネルギーマネー
ジメントシステム
(プロアクティブBEMS・HEMS)

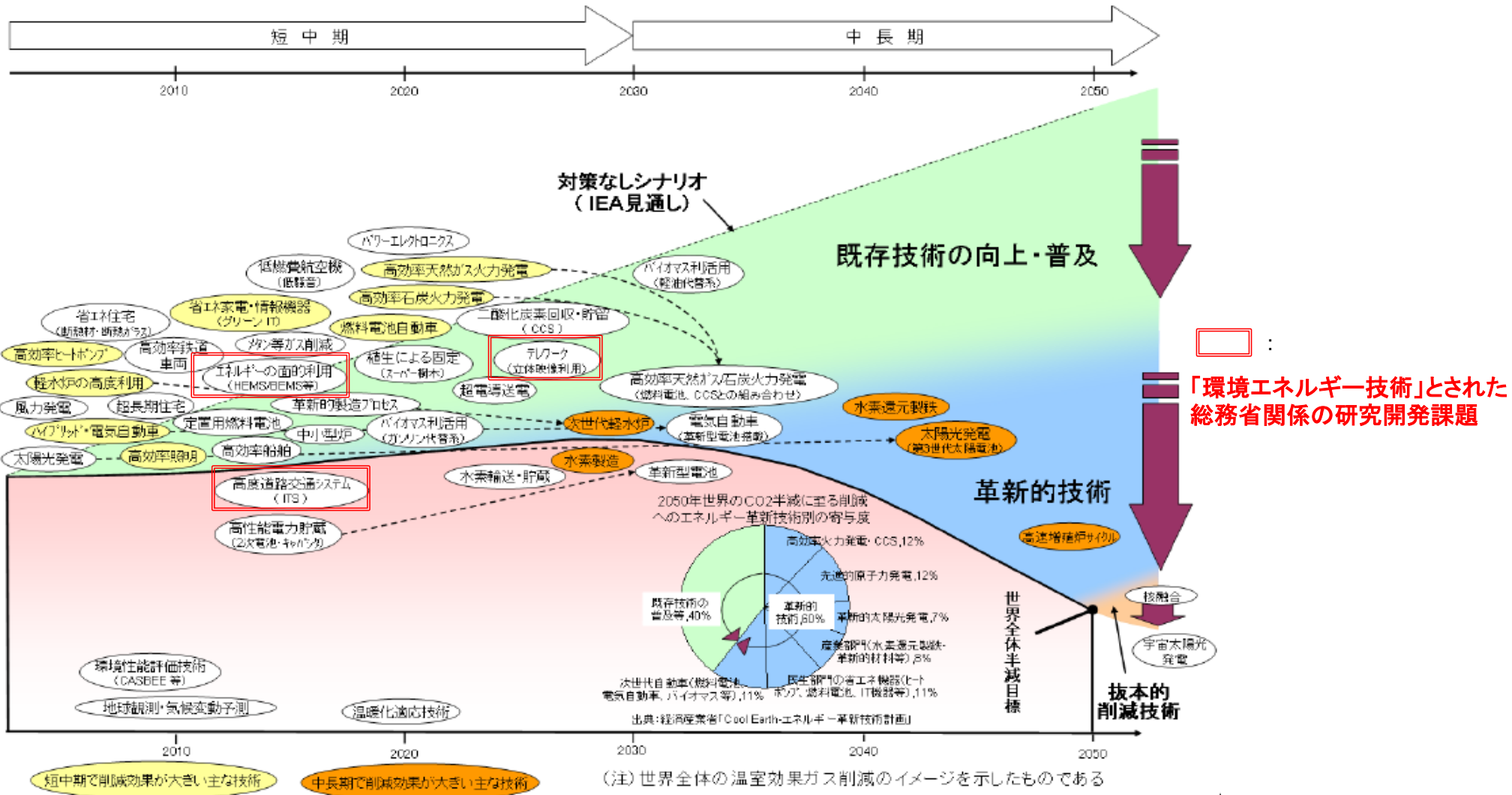
省電力・高度通信機能の実現

広域最適制御機能の実現

・人間の状態把握・予測機能の実現
・環境負荷・省エネ意識喚起機能の実現

環境エネルギー技術革新計画

エネルギー問題や地球温暖化問題の抜本的解決に向けて、我が国が世界に誇る環境エネルギー技術の優位性の保持、革新的科学技術のブレークスルーを目指し、「革新的技術戦略」の一環として策定。



「環境エネルギー技術」とされた総務省関係の研究開発課題

4. グローバル戦略の強化

－グローバル市場における「競争力」と「共生力」を兼ね備えた国家への転換－

ICT産業のグローバル化の推進

将来
ビジョン

- 人口減少に伴い縮小する内需を外需で補うため、ICT産業のグローバル展開を推進
- 日本企業が厳しい競争環境に対応するため、グローバル市場を視野に入れた経営戦略を確立した上で、事業領域の「選択と集中」や国内外の企業との提携等を進め、欧米や新興工業国の有力企業に対抗できる体制を整備
- 民間企業による円滑な国際展開の基盤をなす国と国との協力関係の構築
- 主役である民間企業の取組を支援する国際競争力強化に向けた環境整備

取組方針

- 国際展開の対象となり得る国との間でのICT分野全般の協力関係を構築するための政府間対話の促進
- ICT産業の国際競争力強化で重点を置く領域についてグローバル展開を図る「ユビキタス・アライアンス・プロジェクト」の積極的推進
- アジアにおけるブロードバンド基盤整備、ICT利活用促進、コンテンツ流通加速化を推進するための基本構想「アジア知識・情報経済構想(仮称)」の策定・展開
- 我が国の先進的なICTの理解者を増やすための人材交流の加速に向けた工程表「ICT人材交流加速化プログラム(仮称)」の策定
- アジア・中東・アフリカ等の国々との共同国際研究や共同人材研修を高速通信網を介して行う「デジタルネットシルクロード構想(仮称)」推進に向けた検討加速化
- クラウドコンピューティングサービスの相互運用性等について関係者間で議論を行う場の設定(国際的な議論を先導)

「課題挑戦先進国」への転換

将来
ビジョン

- 我が国のICT産業の高い技術力を活かし、環境・食糧・水資源問題、宇宙・海洋開発等の地球規模の課題に貢献
- 開発途上国の社会システムのイノベーションを通じた豊かな生活の実現に寄与
- ICTを最大限活用した「課題挑戦先進国」としての地歩を固める

取組方針

- ICT利活用を積極的に推進し、エネルギー利用効率の改善、人・モノの移動の削減、生産・消費の効率化、環境計測・環境予測技術の向上、CO₂排出量の可視化等を通じたCO₂削減
- ICTが気候変動を抑制する効果を客観的に評価する手法等について国際的なコンセンサスを得るため、ITU等で取り組んでいる国際標準化活動へ積極的に貢献
- 環境対策としてのグリーンクラウドデータセンタの構築支援、インターネットの省電力制御等の開発を「ICTグリーンプロジェクト」としてパッケージ化
- ITS・スマートグリッド等、ICTを活用した環境にやさしい社会インフラ高度化の実現〔2010年代半ば〕
- 開発途上国における社会的課題への対応に我が国の技術・経験を活かして積極的に貢献
- オープンセンサーネットワーク技術、ネットワークロボット技術等、日本の優れた技術を食糧問題、水資源問題、宇宙・海洋開発などに活かすことを目的とした産学官連携の推進